

授業科目名：特別支援教育論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 修毅
			担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念とは何か、また、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。 ・現代の特別支援学校の教育に関する社会的・制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>戦後の「特殊教育」はどんなに障害の重い子どもたちにも教育と発達を保障するために徐々に拡大されていった。本講義では、まずその歴史や、その背景などについて学ぶ。次に、2007年度に「特殊教育」から転換された「特別支援教育」の社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を学ぶ。最後に、障害者権利条約の批准を受け、インクルーシブ教育システムへの発展を目指している「特別支援教育」について、現状や最新の動向を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～特別支援学校の先生になるということ</p> <p>第2回：障害児教育の萌芽と戦後の特殊教育</p> <p>第3回：養護学校義務制実施と対象の拡大</p> <p>第4回：特殊教育から特別支援教育への転換</p> <p>第5回：学校教育法改定と特別支援教育制度の概要</p> <p>第6回：特別支援学校の目的と機能</p> <p>第7回：特別支援学校の対象となる障害の種類と程度</p> <p>第8回：特別支援学校の教育課程①～学習指導要領と自立活動</p> <p>第9回：特別支援学校の教育課程②～知的障害者の各教科と重度重複障害者等の特例</p> <p>第10回：特別支援学校の寄宿舎</p> <p>第11回：通常学校における特別支援教育①特別支援学級</p> <p>第12回：通常学校における特別支援教育②通常学級在籍児への対応</p> <p>第13回：障害者権利条約とインクルーシブ教育</p> <p>第14回：就学手続きと教育支援委員会</p> <p>第15回：特別支援教育の最新の動向</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>レジュメを使用する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省</p> <p>「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題・小テスト20%、定期試験60%、その他20%</p>			

授業科目名：知的障害児の心理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中嶋 理香 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知的障害児の抱える発達上の「問題」の背景を理解し、教育の場において知的障害児の発達を支えるための知識と視点を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児の生活上の「問題」の原因と対応のあり方の基本が理解できる。 ・知的障害児の行動上の「問題」の原因と、主な療育方法が理解できる。 ・主な知的障害の種類について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>定型的な発達を踏まえ、知的障害児の個別性や発達水準を加味し、学習上・生活上の困難さがどこにあるかを学ぶ。特に、発達心理学の知見に基づく知的障害児の言語、認知、社会性の発達の特徴を学ぶ。これを基に医療・療育機関での取り組みや地域資源の利用の意義を理解し、多職種・地域連携の必要性と役割を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：知的障害児心理学の視点 第2回：知的障害の定義：ICF/DSM/ICD 第3回：知的障害の発見と対応の現状 第4回：知的障害：乳児期・幼児期・学童期・成人期：ダウン症候群 第5回：知的障害の認知特性：ダウン症候群・ウィリアムズ症候群 第6回：知的障害の注意：注意の基礎 第7回：知的障害の注意：特徴 第8回：知的障害の記憶：記憶の基礎 第9回：知的障害の記憶：特徴 第10回：知的障害の実行機能：実行機能の基礎 第11回：知的障害の実行機能：特徴 第12回：知的障害の言語：言語の基礎 第13回：知的障害の言語：特徴 第14回：知的障害の学習：数 第15回：知的障害の学習：文字</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>勝二博亮編著 知的障害児の心理生理病理 北大路書房</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験100%</p>			

授業科目名：知的障害児の生理と病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中嶋 理香
			担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害をきたす脳障害の医学（基礎と臨床）			
<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害を主とする脳障害の小児医学的なものの見方・センスを身につけることができる。 ・将来、「特別支援教育」などに携わる際に不可欠となる「障害児医学」の中の知的障害を主とする脳障害についての基本的知識と考え方を身につけることができる。 			
授業の概要			
<p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった病態生理を示す。子どもの障害の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因と発達の各時期に特有な外的（環境）要因とが互いに関連して変化していくからである。総論において、この成長・発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論において脳障害をおこす原因となる代表的な疾患を通して、知的障害をきたす医学について理解を深めることができるよう、また、障害を固定的に捉えないで可塑性に富んでいることを理解できるよう解説する。</p>			
授業計画			
第1回：知的障害の概念と知的障害			
第2回：知的障害の定義：DSM・ICD 他			
第3回：生理学の基礎：遺伝・染色体			
第4回：知的障害と遺伝病・染色体異常			
第5回：生理学の基礎：代謝			
第6回：知的障害と代謝異常			
第7回：生理学の基礎：中枢神経系			
第8回：知的障害の早期診断，知的障害（脳障害）の原因（1）出生前			
第9回：知的障害（脳障害）の原因（2）周産期（周生期），出生後			
第10回：重症心身障害児・医療的ケア			
第11回：合併症と併存症（1）てんかん			
第12回：合併症と併存症（2）呼吸障害			
第13回：合併症と併存症（3）摂食障害、栄養障害			
第14回：合併症と併存症（4）消化器系疾患			
第15回：合併症と併存症（5）睡眠障害			
定期試験			
テキスト			
勝二博亮編著 知的障害児の心理・生理・病理 北大路書房			
参考書・参考資料等			
「特別支援学校－幼稚園教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省			
「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省			
学生に対する評価			
定期試験100%			

授業科目名：肢体不自由児の心理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：洞井秀之・中嶋理香 担当形態：オムニバス																														
科 目	特別支援教育に関する科目																																
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢）																																
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体障害の身体的な特徴に起因する心理社会的な発達への影響を理解し、教育的な配慮等の必要性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児の心理的発達を理解する。 ・各障害児の心理的特徴について理解する。 ・外部専門家や家庭と連携して教育環境を整えることについて理解する。 																																	
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由児の心理といっても障害をもたらす要因によって、その発達の特徴はそれぞれ異なる。そこで、肢体不自由児の発達について乳幼児期から青年期に至るまでの経過を学び、肢体不自由児の大部分を占める脳性マヒや進行性筋ジストロフィー、重度重複障害児を含む知的障害を随伴した肢体不自由児の心理的特徴についても分析する。そのうえで、各発達領域を中心に身体性がもたらす特徴を分析し、肢体不自由児の心理、運動発達の診断、評価の方法について学ぶ。</p>																																	
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：肢体不自由児の教育と児童理解</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第2回：脳性麻痺児の心理社会的発達（乳幼児期）</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第3回：脳性麻痺児の心理社会的発達（学童期）</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第4回：脳性麻痺児の心理社会的発達（青年期）</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第5回：重度重複障害児の発達</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第6回：重度重複障害児の教育</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第7回：進行性筋ジストロフィー症児の発達</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第8回：進行性筋ジストロフィー症児の教育</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第9回：外部専門家や家庭との連携 肢体不自由児の教育環境整備</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> <tr> <td>第10回：肢体不自由児の身体意識・ボディイメージと運動感覚</td> <td>(担当：中嶋理香)</td> </tr> <tr> <td>第11回：肢体不自由児の感覚・知覚</td> <td>(担当：中嶋理香)</td> </tr> <tr> <td>第12回：肢体不自由児の言語・認知</td> <td>(担当：中嶋理香)</td> </tr> <tr> <td>第13回：肢体不自由児の情緒・社会性</td> <td>(担当：中嶋理香)</td> </tr> <tr> <td>第14回：肢体不自由児の評価</td> <td>(担当：中嶋理香)</td> </tr> <tr> <td>第15回：肢体不自由児の心理社会的発達と教育（まとめ）</td> <td>(担当：洞井秀之)</td> </tr> </table>				第1回：肢体不自由児の教育と児童理解	(担当：洞井秀之)	第2回：脳性麻痺児の心理社会的発達（乳幼児期）	(担当：洞井秀之)	第3回：脳性麻痺児の心理社会的発達（学童期）	(担当：洞井秀之)	第4回：脳性麻痺児の心理社会的発達（青年期）	(担当：洞井秀之)	第5回：重度重複障害児の発達	(担当：洞井秀之)	第6回：重度重複障害児の教育	(担当：洞井秀之)	第7回：進行性筋ジストロフィー症児の発達	(担当：洞井秀之)	第8回：進行性筋ジストロフィー症児の教育	(担当：洞井秀之)	第9回：外部専門家や家庭との連携 肢体不自由児の教育環境整備	(担当：洞井秀之)	第10回：肢体不自由児の身体意識・ボディイメージと運動感覚	(担当：中嶋理香)	第11回：肢体不自由児の感覚・知覚	(担当：中嶋理香)	第12回：肢体不自由児の言語・認知	(担当：中嶋理香)	第13回：肢体不自由児の情緒・社会性	(担当：中嶋理香)	第14回：肢体不自由児の評価	(担当：中嶋理香)	第15回：肢体不自由児の心理社会的発達と教育（まとめ）	(担当：洞井秀之)
第1回：肢体不自由児の教育と児童理解	(担当：洞井秀之)																																
第2回：脳性麻痺児の心理社会的発達（乳幼児期）	(担当：洞井秀之)																																
第3回：脳性麻痺児の心理社会的発達（学童期）	(担当：洞井秀之)																																
第4回：脳性麻痺児の心理社会的発達（青年期）	(担当：洞井秀之)																																
第5回：重度重複障害児の発達	(担当：洞井秀之)																																
第6回：重度重複障害児の教育	(担当：洞井秀之)																																
第7回：進行性筋ジストロフィー症児の発達	(担当：洞井秀之)																																
第8回：進行性筋ジストロフィー症児の教育	(担当：洞井秀之)																																
第9回：外部専門家や家庭との連携 肢体不自由児の教育環境整備	(担当：洞井秀之)																																
第10回：肢体不自由児の身体意識・ボディイメージと運動感覚	(担当：中嶋理香)																																
第11回：肢体不自由児の感覚・知覚	(担当：中嶋理香)																																
第12回：肢体不自由児の言語・認知	(担当：中嶋理香)																																
第13回：肢体不自由児の情緒・社会性	(担当：中嶋理香)																																
第14回：肢体不自由児の評価	(担当：中嶋理香)																																
第15回：肢体不自由児の心理社会的発達と教育（まとめ）	(担当：洞井秀之)																																
<p>定期試験</p>																																	
<p>テキスト</p> <p>レジュメを使用する。</p>																																	
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省</p>																																	
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験100%</p>																																	

授業科目名：肢体不自由児の生理と病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中嶋 理香 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>身体障害についての基礎医学と臨床医学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害についての小児医学的なものの見方・センスを身につけることができる。 ・将来、「特別支援教育」などに携わる際に不可欠となる「障害児医学」の中の身体障害についての基本的知識と考え方を身につけることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった病態生理を示す。子どもの障害の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因と発達の各時期に特有な外的（環境）要因とが互いに連関して変化していくからである。総論において、この成長・発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論においては脳や骨格筋障害をおこす原因となる代表的な疾患を通して、肢体不自由をきたす医学について理解を深めることができ、また、障害を固定的に捉えないで可塑性に富んでいることも理解できるようになる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由児総論① 概念</p> <p>第2回：肢体不自由児総論② 身体機能の発達 運動機能と姿勢保持</p> <p>第3回：脳性麻痺（1）脳性麻痺とは 疫学、脳性麻痺の原因</p> <p>第4回：脳性麻痺（2）障害型とその特徴、診断</p> <p>第5回：脳性麻痺（3）機能評価法</p> <p>第6回：脳性麻痺（4）合併症・依存症（視知覚認知）</p> <p>第7回：脳性麻痺（5）合併症・依存症（言語コミュニケーションと摂食嚥下機能）</p> <p>第8回：脳性麻痺（6）整形外科的治療</p> <p>第9回：二分脊椎：病理</p> <p>第10回：筋ジストロフィー：病理</p> <p>第11回：重症心身障害児</p> <p>第12回：その他 骨系統疾患／手足の先天奇形／先天性股関節脱臼</p> <p>第13回：ペルテス病・先天性多発性関節拘縮症</p> <p>第14回：リハビリテーション：乳幼児期／学童期</p> <p>第15回：医療と教育の連携</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>レジュメを使用する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験100%</p>			

授業科目名：知的障害児教育論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 修毅 大宮 ともこ
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領を基準として特別支援学校（知的障害）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児教育において教育課程が有する意義を理解する。 ・知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、まず、知的障害児教育における教育課程の意義を確認した上、知的障害の特性をふまえた様々な指導形態について学ぶ。知的障害特別支援学校の教育について、指導内容、集団づくり、目標と評価、個別の指導計画などの観点から確認し、それらを総合してカリキュラム・マネジメントができる力を育む。加えて、福祉と連携や進路についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：知的障害児教育における教育課程の意義（担当：伊藤修毅） 第2回：知的障害の状態・特性・発達・学習（担当：大宮ともこ） 第3回：知的障害特別支援学校における各教科の指導（担当：大宮ともこ） 第4回：知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導（担当：大宮ともこ） 第5回：知的障害特別支援学校における自立活動（担当：大宮ともこ） 第6回：知的障害特別支援学校における年間指導計画と個別の指導計画（担当：大宮ともこ） 第7回：知的障害児特別支援学校の教育課程の全体構造と段階（担当：伊藤修毅） 第8回：知的障害児特別支援学校における学習集団と指導形態（担当：伊藤修毅） 第9回：知的障害児特別支援学校における目標と評価（担当：伊藤修毅） 第10回：知的障害特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメント（担当：伊藤修毅） 第11回：知的障害児教育と障害児福祉との連携（担当：伊藤修毅） 第12回：知的障害児の進路指導（担当：伊藤修毅） 第13回：知的障害児の後期中等教育と生涯教育（担当：伊藤修毅） 第14回：知的障害者の卒業後を支える機関との連携（担当：伊藤修毅） 第15回：知的障害児教育の今後の課題（担当：伊藤修毅）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>レジュメを使用する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編」.文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題・小テスト20%、定期試験60%、その他 20%</p>			

授業科目名：知的障害児指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：伊藤 修毅 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児の指導方法に関する基礎知識 ・知的障害児を対象とする特別支援学校での授業形態の類型を知り、子どもに合わせた授業づくりの方法を考えることができる。 ・知的障害児を対象とする特別支援学校の児童・生徒を想定し模擬授業を実施することができる・模擬授業を通して、観察参観等における「見方」を養うことができる。 ・学習指導案の書き方や授業研究の意義を知り、障害児教育実習にのぞむための基本的な心構えを身につけることができる。			
授業の概要 本科目では、特別支援学校の教育課程編成の方法やその根拠となる学習指導要領を簡単に確認した上で、知的障害児を対象とする特別支援学校でよく行われている授業形態を学びます。最終的には、学習指導案の書き方を学びながら模擬授業を行い、授業研究の体験をします。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：本講義の位置付け、構成等 第2回：知的障害児教育の教育課程の復習 第3回：知的障害児教育における授業づくり①（指導目標の設定） 第4回：知的障害児教育における授業づくり②（学習環境づくりと集団編制） 第5回：知的障害児教育における授業づくり③（教材教具とICTの活用） 第6回：知的障害児教育における授業づくり④（各教科の指導） 第7回：知的障害児教育における授業づくり⑤（各教科等を合わせた指導） 第8回：知的障害児教育における授業づくり⑥（自立活動） 第9回：学習指導案の作成と観察・参加参加記録の書き方 第10回：学習指導案の作成と模擬授業演習①：教科別の指導（小学部） 第11回：学習指導案の作成と模擬授業演習②：教科別の指導（中学部・高等部） 第12回：学習指導案の作成と模擬授業演習③：各教科等を合わせた指導（日生・遊び） 第13回：学習指導案の作成と模擬授業演習④：各教科等を合わせた指導（自立活動） 第14回：学習指導案の作成と模擬授業演習⑤：自立活動の時間の指導 第15回：模擬授業の総括と授業改善の視点 定期試験			
テキスト レジュメを使用する			
参考書・参考資料等 「特別支援学校一幼稚園教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編、自立活動編」.文部科学省			
学生に対する評価 定期試験40%、その他60%			

授業科目名： 肢体不自由児教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高木 尚 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の障害概念を理解するとともに、障害の特性や教育制度上の定義を理解している。 ・肢体不自由教育の歴史及び法制度を学び、その現状と課題を考えることができる。 ・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことをめざすために教育課程を編成することを理解し、教育実践に即した教育課程編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、まず、「障害」の概念を確認した上で、「肢体不自由」とはどのような障害なのかを確認します。続けて、障害児教育の発展過程と今後の発展の方向性をふまえ、現在の肢体不自由児教育体系の位置付けや法制度について学びます。その上で教育課程編成の方法とカリキュラム・マネジメント及び肢体不自由児教育の実際をについて学び、肢体不自由児教育の現代的課題についての検討を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：本講義の位置付け、構成等 障害の定義・概念及び特性、教育の場</p> <p>第2回：肢体不自由児教育の歴史</p> <p>第3回：肢体不自由児に対応した教育課程編成</p> <p>第4回：個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>第5回：肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科等の指導①（準ずる教育と下学年対応）</p> <p>第6回：肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科等の指導②（知的代替・重複障害児）</p> <p>第7回：自立活動の指導①（健康の保持、身体の動き、環境の把握）</p> <p>第8回：自立活動の指導②（心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション）</p> <p>第9回：重複障害のある児童・生徒への指導（訪問教育を含む）</p> <p>第10回：病院内・施設内での指導</p> <p>第11回：青年期教育（高等部の教育）</p> <p>第12回：職業教育と進路指導 キャリア教育</p> <p>第13回：学習を支える Assistive Technology①（情報機器等の活用）</p> <p>第14回：学習を支える Assistive Technology②（コミュニケーションの指導と AAC）</p> <p>第15回：肢体不自由児教育の課題とインクルーシブ教育</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「テキスト肢体不自由教育 子ども理解と教育実践」猪狩恵美子、河合隆平、櫻井宏明（全障研出版部 2014）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編」文部科学省</p> <p>「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省</p>			

「特別支援教育免許シリーズ 運動機能の困難への対応」榎木暢子、笠井新一郎、花井丈夫（建帛社2021）

学生に対する評価

課題・平常点（30%）、定期試験(70%)

授業科目名： 肢体不自由児指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高木 尚 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の障害概念を理解するとともに、障害の特性に応じた教育課程編成の意義を理解し、教育課程編成の方法と「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成方法を理解し、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解することができる。 ・個々の障害実態及び発達段階等を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業の実施を通して、自立活動と関連付けた授業づくりの方法を理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では肢体不自由について障害の特性および学習上、生活上の困難を学び、授業実践における具体的な配慮・支援方法について学びます。さらに、個々の子どもの実態把握の方法及び教育課程と関連付けた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成方法について学びます。その上で、各教科の指導、合わせた指導、自立活動について学習指導案を作成して模擬授業を行います。また模擬授業の観察を通して授業研究についても学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 本講義の位置付け・構成等 障害概念・特性について</p> <p>第2回：肢体不自由児教育の教育課程編成と「個別の教育計画」「個別の指導計画」</p> <p>第3回：運動発達の理論と二次障害への対応及び具体的な支援</p> <p>第4回：実態把握の実際と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成</p> <p>第5回：肢体不自由児の自立活動（健康の保持・環境の把握・身体の動き）の指導の実際</p> <p>第6回：肢体不自由児の自立活動（心理的な安定・人間関係の形成・コミュニケーション）の指導の実際</p> <p>第7回：学習指導案の書き方と授業研究の方法</p> <p>第8回：学習指導案の作成と模擬授業演習（小学部「準ずる教育」）</p> <p>第9回：学習指導案の作成と模擬授業演習（小学部「合わせた指導」）</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業演習（中学部・高等部「準ずる教育」）</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業演習（中学部・高等部「下学年対応」）</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業演習（中学部・高等部「合わせた指導」）</p> <p>第13回：学習指導案の作成と模擬授業演習（自立活動「健康の保持」「環境の把握」「身体の動き」）</p> <p>第14回：学習指導案の作成と模擬授業演習（自立活動「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」）</p> <p>第15回：模擬授業の総括と授業づくりのまとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト レジュメを使用する。</p>			

参考書・参考資料等

「障害の重い子供のための各教科の授業づくり」下山直人監修（ジヤース教育新社 2022）

「特別支援学校幼稚部教育要領／小・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領 解説 総則編」文部科学省

学生に対する評価

課題・授業内レポート 60% 定期試験 40%

授業科目名：視覚・聴覚・病弱児論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：洞井秀之、長崎龍樹、井上ひとみ 担当形態：オムニバス
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、及び病理に関する科目（含む領域：視・聴・病）		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害・聴覚障害・病弱児の心理・生理・病理 ・視覚障害の特性とその把握、関係機関との連携などについて理解する ・聴覚障害の特性とその把握、関係機関との連携などについて理解する ・病弱・身体虚弱の特性とその把握、関係機関との連携などについて理解する			
授業の概要 視覚障害・聴覚障害・病弱児の病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用、特性の理解方法、関係機関との連携、教育的支援の在り方などについて理解する。			
授業計画 第1回：視機能と視覚障害の概要（担当：長崎龍樹） 第2回：視機能の低下の要因となる心理・生理・病理面の特徴とそれらの相互作用（担当：長崎龍樹） 第3回：視覚障害児の視知覚・触知覚や認知特性の理解（担当：長崎龍樹） 第4回：視覚障害児の家庭や医療機関との連携（担当：長崎龍樹） 第5回：視覚障害児の教育的配慮について（担当：長崎龍樹） 第6回：聴覚機能と聴覚障害の概要（担当：井上ひとみ） 第7回：聴覚障害の起因となる聴覚器官の心理・生理・病理面の特徴とそれらの相互作用（担当：井上ひとみ） 第8回：聞こえの状態と言語面・心理面の発達の理解（担当：井上ひとみ） 第9回：聴覚障害児の家庭や保健・医療・福祉・労働機関との連携（担当：井上ひとみ） 第10回：聴覚障害児のモダリティ（手話やキュードスピーチ、筆記、聴覚口話など）の理解について（担当：井上ひとみ） 第11回：病弱（身体虚弱）の概要（担当：洞井秀之） 第12回：病気や不調な状態が継続する背景となる心理・生理・病理面の特徴とそれらの相互作用（担当：洞井秀之） 第13回：病気の状態・社会性の発達・認知の特性の把握（担当：洞井秀之） 第14回：病弱児の家庭や医療・福祉・保健機関との連携（担当：洞井秀之） 第15回：病弱児の教育的配慮について（担当：洞井秀之） 定期試験			
テキスト レジュメを使用する。			
参考書・参考資料等 文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』			
学生に対する評価			

定期試験 80%、その他 20%

授業科目名：発達障害児論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：堀 美和子 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標 発達障害児等の理解と対応について学習する。 ・発達障害の生理・病理を含め、その心理特性についても具体的に理解する。 ・特別支援教育において、発達障害をもつ子ども一人一人への具体的な支援計画について考えることができる。 ・学校集団での支援の効果と問題点について知る。 ・児童・生徒理解のためのアセスメントについて学習する。 ・特別支援教育の中での様々な障害やそれらの障害の重度・重複化との関連についても学習する。			
授業の概要 発達障害の概要を理解する。特に彼らのパーソナリティの発達や集団の中での自己形成認知などを心理学的視点から学習する。さらに、それらの障害を持つ“子ども自身を理解する”とはどういうことかについて検討する。また、近年課題となっている障害の重複化についても触れる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 発達障害とは？ 第2回：学習障害① 障害特性の理解と対応 ―その生理と病理― 第3回：学習障害② 認知特性と学校教育での支援 ―心理特性と教育― 第4回：注意欠如多動性障害① 障害特性の理解と対応 ―その生理と病理― 第5回：注意欠如多動性障害② 自己効力感と支援 ―心理特性と教育・家庭― 第6回：自閉症スペクトラム障害① 障害特性の理解と対応 ―その生理と病理― 第7回：自閉症スペクトラム障害② 社会性の障害に対する支援 ―心理特性と教育・家庭― 第8回：その他の障害（言語障害・情緒障害など）の理解と対応① 第9回：その他の障害（愛着障害など）の理解と対応② 第10回：理解のためのアセスメント 第11回：教育・集団場面での理解と対応① 2次障害について 第12回：教育・集団場面での理解と対応② 家族支援について 第13回：対応の実際 第14回：障害の重複化とその対応 第15回：発達障害をめぐる課題 定期試験			
テキスト レジュメを使用する。			
参考書・参考資料等 「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省			
学生に対する評価 課題・小テスト20%、定期試験70%、その他10%			

授業科目名：特別支援教育課程論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 修毅 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（含む領域：知・肢・視・聴・病・発達・重複）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育の教育課程と指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の各障害の教育課程（学校教育法施行規則・学習指導要領等）とカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・特別支援学校のセンター的機能として通常学校の支援について理解する。 ・通常学校における特別支援教育の教育課程や自立活動について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育法施行規則や学習指導要領を概観し、特別支援学校における障害種別の教育課程編成やカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。続けて、通常学校の教育課程を確認し、特別支援学級や通級による指導における特別の教育課程について学ぶ。さらに、これらの知識や個別の指導計画の活用の経験をセンター的機能の実践に活かせるようする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学校教育法施行規則と特別支援学校の教育課程</p> <p>第3回：特別支援学校学習指導要領の基本的な考え方</p> <p>第4回：特別支援学校（視覚・聴覚）の準ずる教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第5回：特別支援学校（肢体・病弱）の準ずる教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第6回：特別支援学校（知的）の教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第7回：重度重複障害児の教育課程とカリキュラム・マネジメント①（下学年対応と知的代替課程）</p> <p>第8回：重度重複障害児の教育課程とカリキュラム・マネジメント②（自立活動を主とした課程）</p> <p>第9回：発達障害等の理解と特別支援学校のセンター的機能</p> <p>第10回：特別支援学級の教育課程と自立活動①（知的障害等）</p> <p>第11回：特別支援学級の教育課程と自立活動②（自閉症・情緒障害等）</p> <p>第12回：通級による指導の教育課程と自立活動①（LD・ADHD等）</p> <p>第13回：通級による指導の教育課程と自立活動②（言語障害・自閉症・情緒障害等）</p> <p>第14回：通常学校における特別な支援の方法①（個別の指導計画の活用）</p> <p>第15回：通常学校における特別な支援の方法②（教材・教具とICTの活用）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>レジュメを使用する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「特別支援学校－幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」.文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」.文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験80%、その他20%</p>			

授業科目名： 重度重複障害児指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高木 尚 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複、含む領域：視・聴・病)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害、聴覚障害、病弱（身体虚弱を含む）の障害概念を理解するとともに、障害の特性に応じた教育課程編成の意義を理解し、教育課程編成の方法と「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成方法を理解し、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解することができる。 ・いくつかの障害を合わせた重複障害児の心理・生理・病理面の特徴と教育課程の意義を理解し、子どもに応じた実態把握及び「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」作成方法を理解することができる。 ・個々の障害実態及び発達の段階等を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業の実施を通して、自立活動と関連付けた授業づくりの方法を理解することができる。 			
授業の概要			
<p>本科目では視覚障害、聴覚障害、病弱（身体虚弱を含む）及び重複障害について障害の特性および学習上、生活上の困難を学び、授業実践における具体的な配慮・支援方法について学びます。さらに、個々の子どもの実態把握の方法及び教育課程と関連付けた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成方法について学びます。その上で、各教科の指導、合わせた指導、自立活動について学習指導案を作成して模擬授業を行います。また模擬授業の観察を通して授業研究についても学びます。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
視覚障害児の教育課程の実際と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成			
第2回：視覚障害児の各教科及び自立活動の指導法及び学習指導案の作成			
第3回：聴覚障害児の教育課程の実際と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成			
第4回：聴覚障害児の各教科及び自立活動の指導法及び学習指導案の作成			
第5回：病弱児・身体虚弱児の教育課程の実際と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成			
第6回：病弱児・身体虚弱児の各教科及び自立活動の指導法及び学習指導案の作成			
第7回：重度重複障害児の心理・生理・病理面の特徴と実態把握の方法			
第8回：重度重複障害児の心理・生理・病理面の特徴をふまえた教育課程の編成と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成			
第9回：重複障害児の「合わせた指導」「自立活動」の実際と指導法及び学習指導案作成			
第10回：模擬授業演習①（「健康の保持」を中心とした自立活動）			
第11回：模擬授業演習②（「心理的な安定」を中心とした自立活動）			
第12回：模擬授業演習③（「人間関係の形成」「コミュニケーション」を中心とした自立活動）			
第13回：模擬授業演習④（「環境の把握」を中心とした自立活動）			
第14回：模擬授業演習⑤（「身体の動き」を中心とした自立活動）			
第15回：模擬授業の総括とまとめ			

定期試験
テキスト レジュメを使用する。
参考書・参考資料等 「障害の重い子供のための各教科の授業づくり」下山直人監修（ジヤース教育新社 2022） 「特別支援学校幼稚部教育要領／小・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領 解説 総則編」文部科学省
学生に対する評価 課題・授業内レポート 60% 定期試験 40%